

地域医療シンポジウム(2月13日)から

住民として地域医療を支えるために何が出来るのか? 何をすればよいのか? 地域医療シンポジウムが2月13日、じばさんセンターで開催されました。第1部では基調講演、第2部ではパネルディスカッションが行われました。以下、基調講演の内容を紹介します。

基調講演では、千葉県で地域医療を守る活動を続けるNPO法人「地域医療を育てる会」の藤本晴枝理事(写真)を講師に迎えました。

藤本理事長の住む千葉県山武地域では、地元の総合病院の内科医が一時2人までに減り、地域医療が崩壊寸前の状態に。そこから住民・行政・医療関係者の努力により、現在では内科医が12人程度まで回復しました。地域医療の再生に、住民としてどう取り組んできたのかを藤本さんに話していただきました。



藤本晴枝さんプロフィール  
NPO法人「地域医療を育てる会」理事長。東京での幼稚園教諭を経て千葉県東金市へ。平成17年に「地域医療を育てる会」を設立。地域医療を守る先進事例を全国各地で講演。

医療崩壊の先進地  
私の住んでいる千葉県山武地域は、医療再生の先進地と言われていたが、それ以前に医療崩壊の先進地でした。平成12年ごろ、地元の県立東金病院で、病院の看板にあった診療科名が次々と減っていききました。最後は病院の名前だけの看板に変わってしまいました。そんなとき、東金病院の平井院長と直接お話しする機会があり、「これからは医療現場だけでは解決はできない。市民のほうからも何らかの行動を起こしてほしい」と宿願をいただきました。不安でしたが、院長が「私が病院でたった1人になっても、ここで医療を続けます」とおっしゃったのを聞いて、「ここで何かやらなきゃ」という思いになったのです。

情報発信と対話の場作り  
「地域医療を育てる会」では情報発信と対話の場作りという2つの柱で活動をしています。情報発信では情報誌「LOVER」を隔月で発行し「医療・行政は、どんなことに困っているのか」「問題解決のために、住民は何ができるのか」について呼びかけています。東金市内に回覧板で配布しています。35号では夜間救急外来に密着ルポをしました。そこでは深夜に次々と運ばれる急患、36時間以上連続勤務する医師の現状を目の当たりにしました。一方で深夜に救急外来に来る患者の中には「人が少ない時間帯だから来た」「日中は送ってもらえない人がいないから」と緊急な

容態でない人が多い実態も分かりました。このことから、情報誌などを通じ昼間のうちに外来にかかることを呼びかけています。

対話の場作りとしては、レジデント(後期研修医)研修を開催しています。病気の講話や質疑応答を通じて、研修医の説明・傾聴などについて一般市民の「医師育成サポーター」が評価を行っています。研修後、サポーターからは「今後一市民としてできることから協力し、支えていきます」という感想もあり、市民と医師との関係作り役立っています。

地域が変われば医療が変わる  
東金病院の内科は、今では12人程度まで増えましたが、一番少ないときに2人という状態でした。この2人がなぜ残ってくれたのか。「何をしたいか分からないけれど守りたい」という熱意があるサポーターをおいて他には行けないと思ったからだと思います。地域が変われば医療が変わります。もうお客様ではいられません。(シンポジウムの基調講演から抜粋)

地域医療のひろば



言葉の「くすり」

冬来りなば春遠からじ



島根県済生会江津総合病院 院長 堀江 裕

る 外は吹雪  
♪ 囲炉裏のはたに 縄なう父は 過ぎし いくさの手柄を語る 居並ぶ 子どもは 眠さ忘れて 耳を傾け こぶし を 握る 囲炉裏火はとーとー 外は吹雪

この歌は1912年(明治45年)、尋常小学校3年生の教科書に載ったといわれています。春を待ちこがれる気持ちは寒さの厳しい雪国ほど強く、この歌は春の小川やふるさとの歌とともに 人気のある歌ですが、教科書には載っていません。そのため 忘れられていくには惜しい、使われなくなった言葉が出ています。1911年(明治44年)に済生会がスタートした時代にできた歌ですので、抜粋してみました。時代を反映して日露戦争の「過ぎし いくさの手柄を語る」という文章が、「過ぎし昔の思い出語る」という文章になってしまったそうです。「冬来りなば春遠からじ」で、山陰の一日も早い春が待ち望まれる今日この頃であります。

年末年始の山陰地方の大雪は米子や松江では昭和38年以来という話でしたが、出雲市から西のご当地石見地方はうって変わって雪の少ない正月でした。昭和38年といえば私は中学2年生。生まれた故郷の雲南市では、集落が孤立し、ヘリコプターで食べ物運んでもらったり、2mも積もった雪を掘って、キャベツを収穫し、家の出入りも2階からしたことを思い出します。当時は寒さも半端ではなく、大寒の頃になると、家の周りはつららが当たり前にさがりました。祖母は「旧正月がきてまたひとつ 年をとってしまった」と嘆いていたことを思い出します。家には囲炉裏がまだ存在し、薪を入れて、お茶や鍋をかけて煮炊きをしていました。世間話をしたり、歌をうたったりしてくれました。

私の好きな文部省唱歌で「冬の夜」という歌があります。

♪ ともし火近く 衣縫う 母は 春の遊びの楽しさ語る 居並ぶ 子どもは 指を折りつつ 日数かぞえて 喜び勇む 囲炉裏火は とーとー とー

済生会支部島根県済生会職員募集

- ◎看護師 募集人数 30人 (日勤帯職員及び臨時、パートも募集中)
- ◎助産師 若干名
- ◎薬剤師 若干名
- ◎臨床検査技師 若干名
- ◎理学療法士 1人
- ◎作業療法士 1人
- ◎社会福祉士 1人
- いづれの職種についても下記のとおりとします。
- ◎資格
  - ①平成23年3月卒業予定の人(職種の資格取得見込みの人)
  - ②職種の資格を有している人

- ◎応募方法 写真付き履歴書、資格免許証(写)を郵送してください。
- ◎試験日 随時
- ※いづれの職種も島根県済生会職員として採用し、配属先は支部の辞令により決定いたします。

詳細は、ホームページをご覧ください。  
 島根県済生会江津総合病院 総務課(末須)  
 TEL(54)0101  
 〒695-8505 江津町1016-37  
 http://www.saiseikai-gotsu.jp/

「施設での高齢者医療を考える会」開催のお知らせ

- ◎日時 3月13日(日)14:00~15:50(受付13:30~)
- ◎会場 総合市民センター 2階 大会議室 (定員150人、駐車場あり)
- ◎参加費 無料(ただし、定員を超えた場合はお断りする場合がございます。)
- ◎講師 門脇 秀和 医師 (済生会江津総合病院内科医・白寿園嘱託医)

- ◎内容 第1部「胃ろう」を考える 白寿園ご利用者ご家族の体験談、胃ろうの捉え方 ほか
- 第2部「看取り」を考える 白寿園職員による事例報告、看取りの捉え方 ほか
- ◎ 特別養護老人ホーム白寿園 TEL(52)0006